オホーツク海宗谷暖流情報

（R2(2020)年8月下旬）

R2(2020)年8月24日
中央水産試験場資源管理部
（担当：海洋環境G 栗林・品田・有馬）

●8月下旬現在，宗谷暖流の勢力は例年並みです（図1）。
●オホーツク海沖合の表面水温は，約1カ月にわたってAt消滅の目安となる15℃を超えており（図2），Atはほぼ消滅したものと推測されることから，麻痺性毒性値は今後緩やかに低下するものと考えられます。
●宗谷暖流情報は今回で終了します。

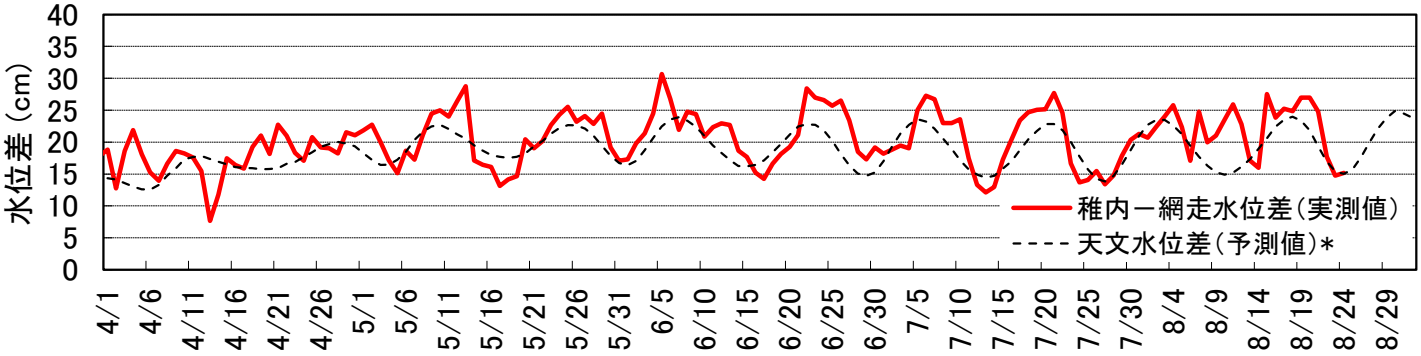

図1　R2(2020)年4/1-8/24の稚内と網走の水位差（宗谷暖流**の勢力）

*天文水位差の予測値は，潮汐表として公開されている予測(天文)潮位から算出することができます(実測値は気圧と風の影響を受けて変動します)。
**宗谷暖流は日本海とオホーツク海の水位の落差が大きいほど強く流れることが分かっており，この落差は，稚内と網走の水位差で代表できることが分かっています。

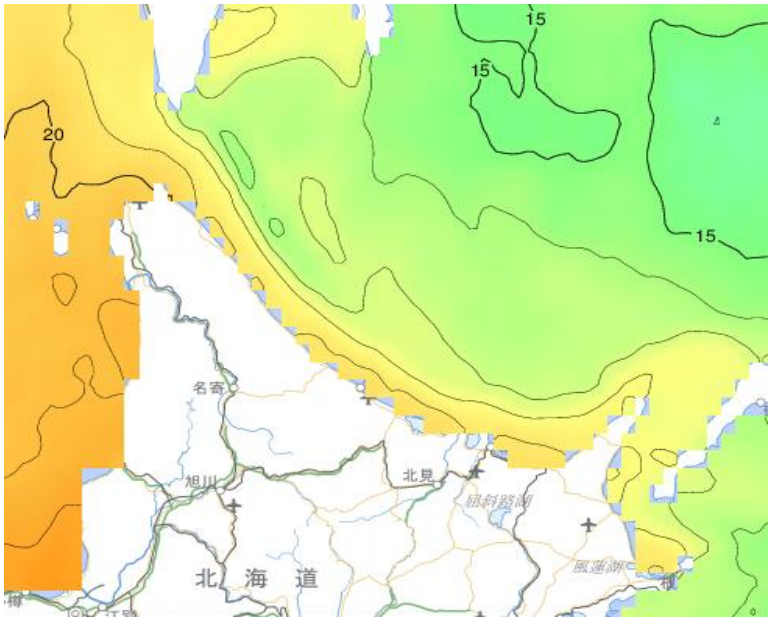

図2　R2(2020)年8/24 オホーツク海沖合の表面水温の分布

気象庁　海面水温実況図
http://www.data.jma.go.jp/gmd/kaikyou/kaikyou/tile/jp/index_sstanl.html#zoom:7/lat:43.066801/lon:142.530908/mapheight:600/colordepth:normal/element:sst

オホーツク海貝毒プランクトン速報

（R2(2020)年7月下旬～8月上旬）

R2(2020)年8月3日

中央水産試験場資源管理部
（担当：海洋環境G 栗林・品田・有馬）

●7月27-30日にオホーツク海で行った麻痺性貝毒プランクトン(アレキサンドリウム・タマレンセ・スピーシーズ・コンプレックス（旧アレキサンドリウム・タマレンセ），略称「At」）の広域分布調査の結果を速報します。

●Atは，34定点中18定点で出現（最高140細胞/L)しています(図1)。最高密度が，毒化の目安となる100細胞/Lを超えており，注意が必要です。

●8月上旬現在，宗谷暖流の勢力は例年並みですが(図2)，再び勢力が弱まれば，Atが沿岸のホタテガイ漁場に流入する可能性があります。今しばらく麻痺性毒性値の推移にご注意ください。

●宗谷暖流の勢力については，今後も「オホーツク海宗谷暖流情報」として適宜発信予定です。

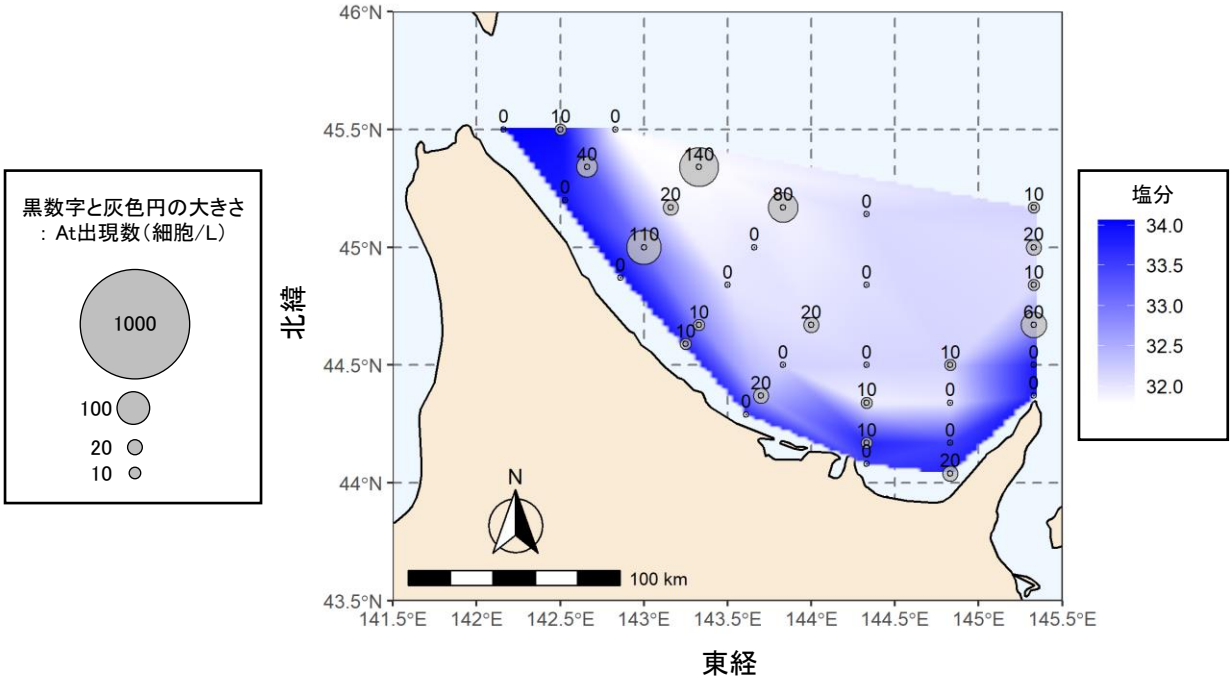

図1　R2(2020)年7/27-30の表面塩分(青コンター)と At(灰丸・数字，細胞/L，深度0・10・20mの最高値)の分布

沿岸の高塩分帯は宗谷暖流，稚内水試調査船北洋丸による調査結果

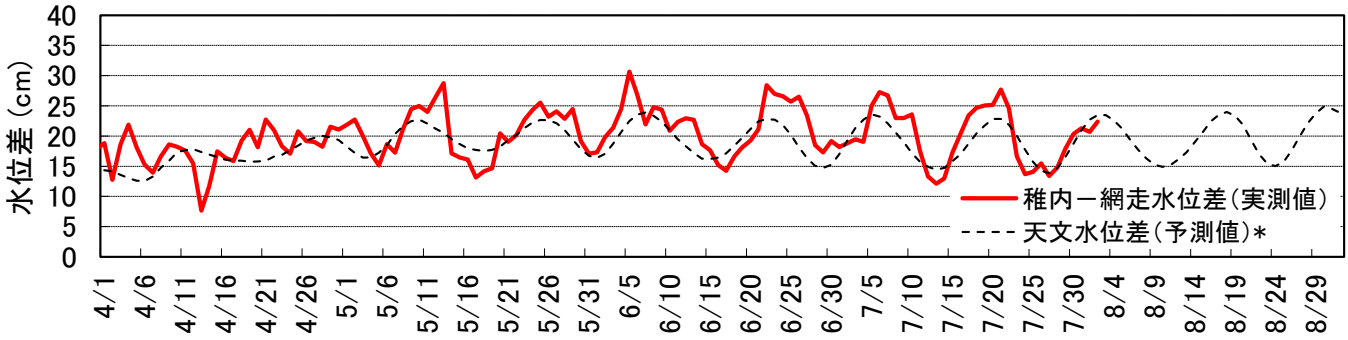

図2　R2(2020)年4/1-8/2の稚内と網走の水位差（宗谷暖流**の勢力）

*天文水位差の予測値は，潮汐表として公開されている予測(天文)潮位から算出することができます(実測値は気圧と風の影響を受けて変動します)。

**宗谷暖流は日本海とオホーツク海の水位の落差が大きいほど強く流れることが分かっており，この落差は，稚内と網走の水位差で代表できることが分かっています。

オホーツク海宗谷暖流情報

（R2(2020)年7月中旬）

R2(2020)年 7月14日
中央水産試験場資源管理部
（担当：海洋環境G 栗林・品田・有馬）

●7/12-13に宗谷暖流の弱勢が観測されました(図1，↑印)。オホーツク海高気圧の張り出しにより北よりの風が続いたことが原因と考えられます。
●6月上旬の広域分布調査により，毒化の目安となる100細胞/Lを超える麻痺性貝毒プランクトンAtが沖合に確認されています(図2)。
●宗谷暖流の弱勢が観測されたことから(図1)，Atが沿岸のホタテガイ漁場に流入して，麻痺性毒性値が上昇する可能性があります。毒性値の情報にご注意下さい。
●宗谷暖流の勢力については，適宜「オホーツク海宗谷暖流情報」として発信予定です。
●次回の広域分布調査は7月下旬を予定しています（8月上旬発信予定）。

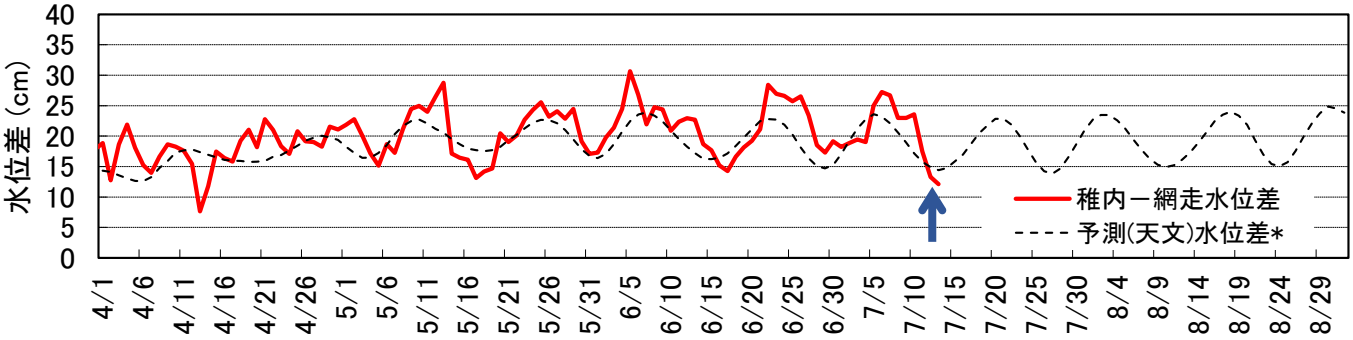

図1　R2(2020)年4/1-7/13の稚内と網走の水位差（宗谷暖流**の勢力）

*水位差の予測値は，潮汐表として公開されている予測(天文)潮位から算出することができます(実測値は気圧と風の影響を受けて変動します)。
**宗谷暖流は日本海とオホーツク海の水位の落差が大きいほど強く流れることが分かっており，この落差は，稚内と網走の水位差で代表できることが分かっています。

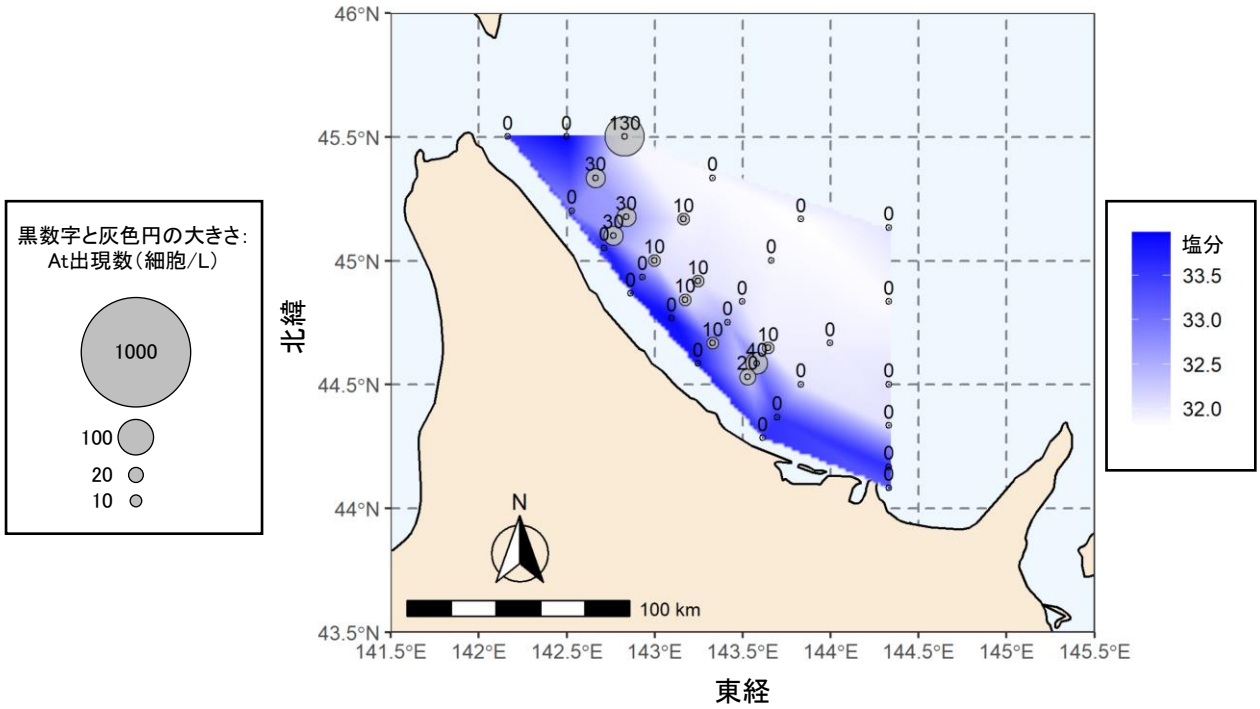

図2　R2(2020)年6/1-3の表面塩分(青コンター)と At(灰丸・数字，細胞/L)の分布
沿岸の高塩分帯は宗谷暖流，稚内水試調査船北洋丸による調査結果

オホーツク海宗谷暖流情報

（R2(2020)年7月上旬）

R2(2020)年7月 9日

中央水産試験場資源管理部
（担当：海洋環境G 栗林・品田・有馬）

●7月上旬現在，宗谷暖流の勢力に弱化傾向はみられませんが（図1），今後北寄りの風が続くと宗谷暖流は弱化する可能性があります。本年は，6月上旬の広域分布調査により，毒化の目安となる100細胞/Lを超える麻痺性貝毒プランクトンAtが沖合に確認されていることから（図2），麻痺性毒性値の推移にご注意ください。

●宗谷暖流の勢力については，適宜「オホーツク海宗谷暖流情報」として発信予定です。

●次回の広域分布調査は7月下旬を予定しています（8月上旬発信予定）。

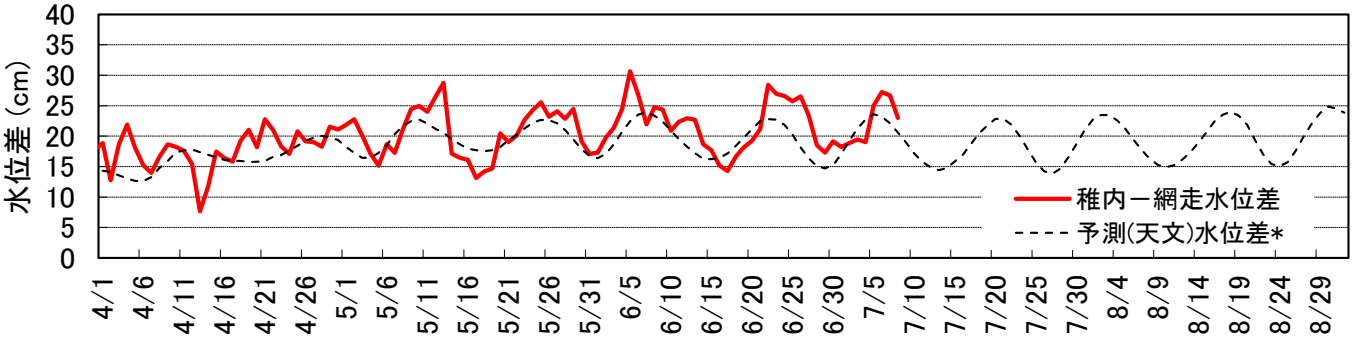

図1　R2(2020)年4/1-7/8の稚内と網走の水位差（宗谷暖流**の勢力）

*水位差の予測値は，潮汐表として公開されている予測(天文)潮位から算出することができます(実測値は気圧と風の影響を受けて変動します)。
**宗谷暖流は日本海とオホーツク海の水位の落差が大きいほど強く流れることが分かっており，この落差は，稚内と網走の水位差で代表できることが分かっています。

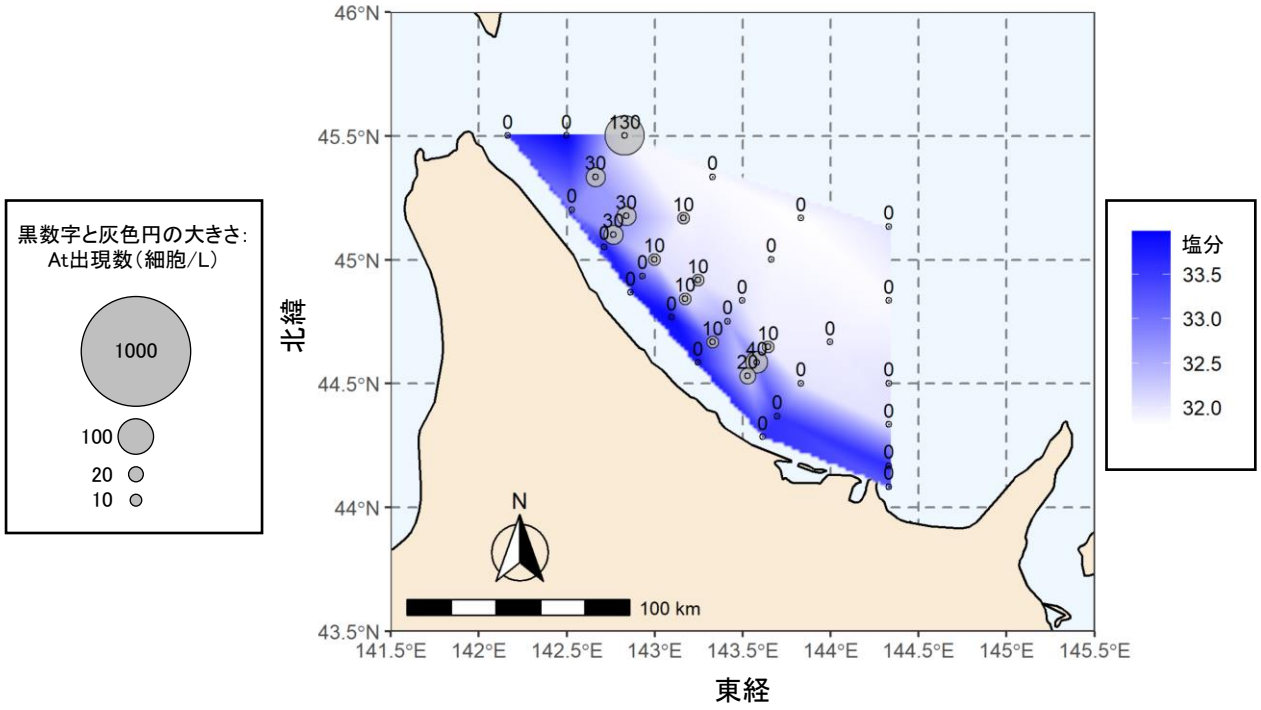

図2　R2(2020)年6/1-3の表面塩分(青コンター)と At(灰丸・数字，細胞/L)の分布
沿岸の高塩分帯は宗谷暖流，稚内水試調査船北洋丸による調査結果

オホーツク海宗谷暖流情報

（R2(2020)年6月下旬）

R2(2020)年6月22日

中央水産試験場資源管理部
（担当：海洋環境G 栗林・品田・有馬）

●6月下旬現在，宗谷暖流の勢力は例年並みですが（図1），今後北寄りの風が続くと宗谷暖流は弱化する可能性があります。本年は，6月上旬の広域分布調査により，毒化の目安となる100細胞/Lを超える麻痺性貝毒プランクトンAtが沖合に確認されていることから（図2），麻痺性毒性値の推移にご注意ください。

●宗谷暖流の勢力については，適宜「オホーツク海宗谷暖流情報」として発信予定です。

●次回の広域分布調査は7月下旬を予定しています。

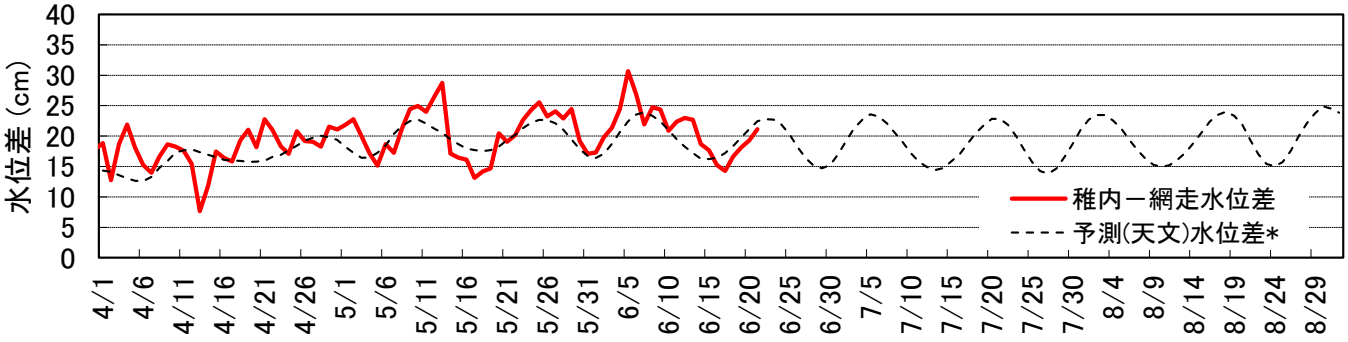

図1　R2(2020)年4/1-6/21の稚内と網走の水位差（宗谷暖流**の勢力）

*水位差の予測値は，潮汐表として公開されている予測(天文)潮位から算出することができます(実測値は気圧と風の影響を受けて変動します)。
**宗谷暖流は日本海とオホーツク海の水位の落差が大きいほど強く流れることが分かっており，この落差は，稚内と網走の水位差で代表できることが分かっています。

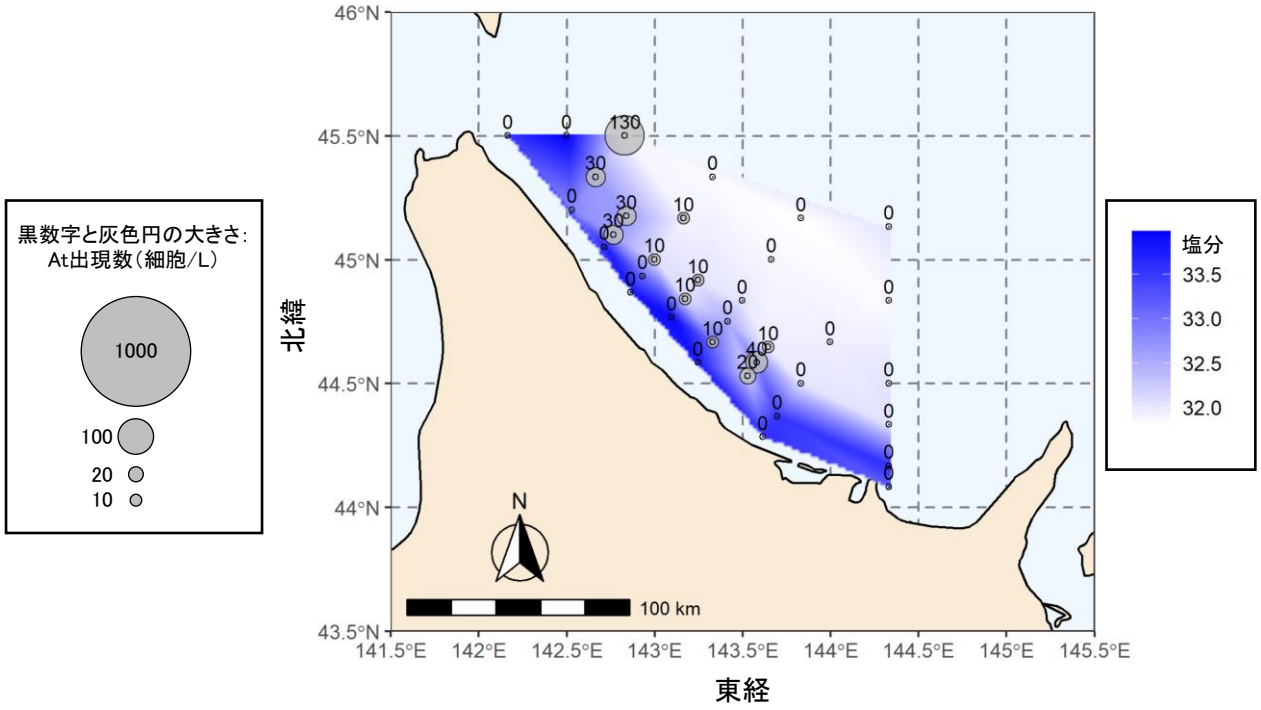

図2　R2(2020)年6/1-3の表面塩分(青コンター)と At(灰丸・数字，細胞/L)の分布
沿岸の高塩分帯は宗谷暖流，稚内水試調査船北洋丸による調査結果

オホーツク海貝毒プランクトン速報

（R2(2020)年6月上旬）

R2(2020)年6月5日

中央水産試験場資源管理部
（担当：海洋環境G 栗林・品田・有馬）

●6月1-3日にオホーツク海で行った麻痺性貝毒プランクトン(アレキサンドリウム・タマレンセ・スピーシーズ・コンプレックス（旧アレキサンドリウム・タマレンセ），略称「At」）の広域分布調査の結果を速報します。

●Atは，35定点中12定点で最高130(細胞/L)出現しています(図1)。最高密度が，毒化の目安となる100細胞/Lを超えており，注意が必要です。

●6月上旬現在，稚内から網走の方向に沿岸を流れる宗谷暖流の勢力は例年並み～強めです(図2)。しかしながら，Atが多く出現していることを考慮すると，宗谷暖流の勢力が弱まれば，Atが沿岸のホタテガイ漁場に流入して，麻痺性毒性値が上昇する可能性があります。水位差の変化に注意してください。今後の宗谷暖流の勢力については，「オホーツク海宗谷暖流情報」として適宜お知らせする予定です。

●次回の広域分布調査は7月下旬を予定しています。

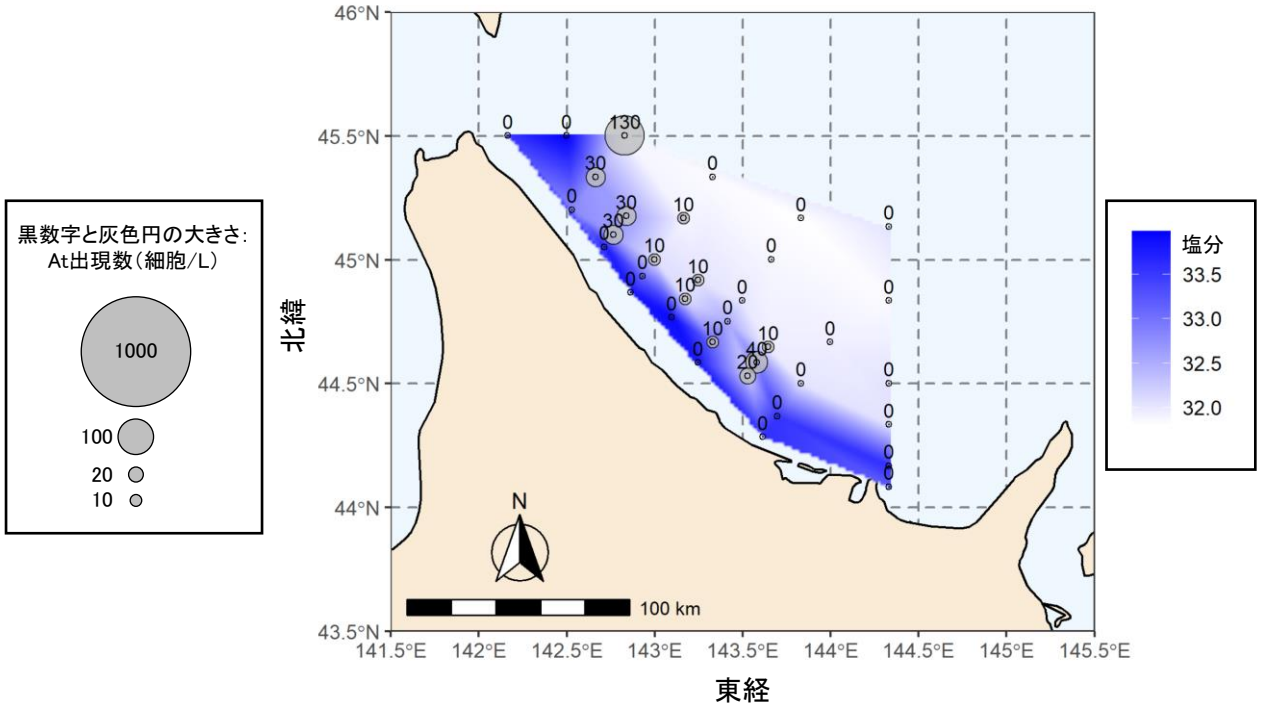

図1　R2(2020)年6/1-3の表面塩分(青コンター)と At(灰丸・数字，細胞/L)の分布
沿岸の高塩分帯は宗谷暖流，稚内水試調査船北洋丸による調査結果

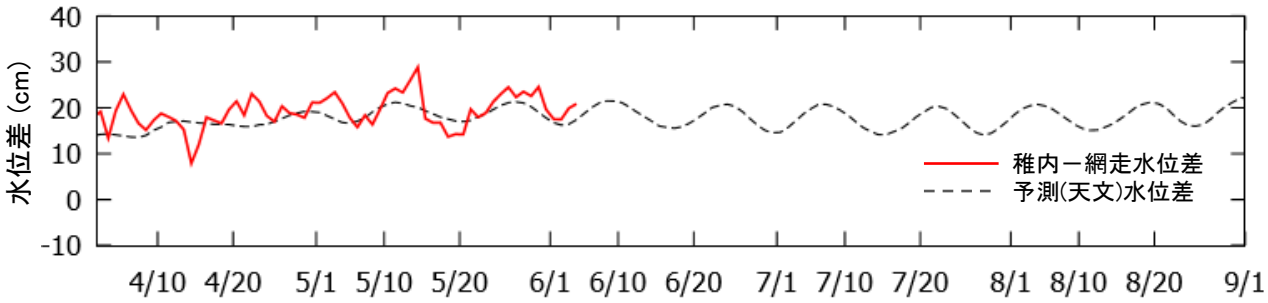

図2　R2(2020)年4/1-6/4の稚内と網走の水位差（宗谷暖流*の勢力）

*宗谷暖流は日本海とオホーツク海の水位の落差が大きいほど強く流れることが分かっており，この落差は，稚内と網走の水位差で代表できることが分かっています。